

報 告

第 19 回日本難病看護学会学術集会プレセミナー 「意思伝心：伝えあうためのワザ・モノ・制度」

中部学院大学 井村 保

1. はじめに

2014 年 8 月 28 日に広島国際大学呉キャンパス（広島県呉市）にて、第 19 回日本難病看護学会（以下、難看学会）学術集会プレセミナーが開催された。

このセミナーは、難看学会が学術大会のプレセミナーとして開催しているものであるが、今回の大会会場が、日本リハビリテーション工学協会（以下、当協会）・リハ工学カンファレンス会場である広島国際大学呉キャンパスであり、日程もプレセミナーの前後に連続するという全くの偶然が重なったことがきっかけとなり、当協会との共催としての実施になった。ここに、その概要を報告する。

2. 日本難病看護学会概要

難看学会 (<http://square.umin.ac.jp/intrac/>) は、難病看護を中心とするケア、ケアシステム、福祉の研究を推進し、これにより、国民の健康な生活の確保に貢献することを目的とする学会で、昭和 54 (1979) 年に「難病看護研究会」として発足、平成 7 (1995) 年に学会へ移行した。難病に関わる看護師が中心に 500 名を超える会員数であり、昨年度から「難病看護師」の学会認定をはじめている。

平成 25 (2013) 年には、障害者総合支援法への改正に伴い難病患者等も補装具費支給制度をはじめとした福祉施策の対象になったことから、当協会の対象分野との接点が大きくなっていくといえる。

3. プレセミナー

今回のプレセミナーは「意思伝心：伝えあうためのワザ・モノ・制度」として意思伝達装置などの神経難病患者のコミュニケーション支援をテーマに、

①「機器体験／相談コーナー」、②講演「神経難病におけるコミュニケーション支援」、③/④実践報告「訪問看護師として、ともに歩み、学んだこと」および「北海道難病医療ネットワーク活動とコミュニケーション支援」のプログラムで実施され、①をコミュニケーション SIG が、②を筆者が担当した。なお、この講習も認定「難病看護師」更新ポイント対象研修となっていた。



図 1 機器展示の様子

4. おわりに

今回は、初の試みとして共催セミナーという形で実施した。参加者は難看学会参加者・関係者約 50 名、当協会関係参加者・スタッフ約 10 名、また、機器展示として、4 社からの出展および 6 社からのデモ機貸出・カタログ出展のご協力を頂いての実施であった。

全体としての参加者は決して多くはなかったが、機器展示ではじっくり体験・相談が出来たことや、これまでリハ工学を知られてないところでの情報提供としては、大きな効果があったといえる。

今後も機会があれば、コミュニケーション機器以外の分野での共催セミナーなどを実施することは、両分野で支援に携わる者の知識とスキル向上のためには必要になるだろう。

中部学院大学 看護リハビリテーション学部
〒501-3993 岐阜県関市桐ヶ丘 2-1